着任のあいさつ・新入職員のご紹介

施設長
伊藤　憲治

日頃より施設ご利用者をはじめご家族、地域の皆様、その他多くの方々に温かいご支援とご協力をいただき、心よりお礼と感謝を申し上げます。この度、令和6年4月1日付けで、7年振りに帯広慈光学園の管理者を拝命いたしました伊藤と申します。

新型コロナウイルス感染症の感染症法の位置づけが、令和5年5月8日以降、「新型インフルエンザ等感染症（2類相当感染症）」から「5類感染症」へ移行されたことにより日本経済は本格的に復調しはじめ、各種イベントの再開、飲食、旅行、ホテル業界も賑わいを取り戻しつつあります。

しかし、一方では各業界ともに人手不足が顕著な問題となっています。

特に福祉業界では、労働需給のひっ迫が生じているように見えるにもかかわらず、報酬の改定率が物価上昇に追いついていません。その結果、賃金上昇抑制圧力が働き、非正雇用の増加のほか、賃上げが思うように進められず、求人を出しても満足に職員が確保出来ない状況が続いております。

長引くコロナ感染症対策と慢性的な人員不足という難しい状況が続く中で、昨年度、帯広慈光学園では利用者支援にあってはならない虐待と認定される重大な事案が発生し、ご家族、地域の皆様、その他多くの方々に多大なるご迷惑、ご心配をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。

人手に不足感のある職場は、どうしても能動的な考え方（非コントロール欲）が強まる傾向にあり、何人かの利用者様をコントロールしてでも全利用者様に対して時間内にサービスを提供しなければならないというプレッシャーに駆られ易くなってしまいがちです。

まだ、行政からの処分は通知されておりませんが、関係職員の懲戒処分と併せて是正処置を随時進めているとことろであります。虐待を起こしてしまった職員の知識や技術・自己認知の問題だけでなく、施設全体としても昼夜を問わず人手と時間に制約のある環境下においては、まずは施設として生活支援員の誰しもが虐待の当事者になり得る（だからこそ生活支援員同士話し合うことが大事である）ことを認識し専門性の欠如や部門や職員間のコミュニケーション不全など改善に取り組んで参る所存であります。

「信頼を失うのは一瞬、取り戻すのは一生」といわれますが、職員一丸となってご利用者様、ご家族の想いを大切にした施設を目指し、信頼される施設となれるよう日々努力して参りますので、ご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

春の焼肉行事

いよいよ焼肉シーズンの到来ですね。帯広慈光学園でも「春の焼肉行事」を開催！　当日は天候にも恵まれ快晴。とはいえこの日の気温は27℃超と、やや暑い。熱中症も心配・・・ということで急遽園内での開催となりました。外でいただく焼肉はおいしいですが、園内でいただく焼肉も十分おいしく楽しい焼肉行事となりました。